

笑顔と輝きに満ちた谷原中



やわらの杜

URL <http://www.yawara-j.nerima-kyo.ed.jp/>

平成24年 4月27日

練馬区立谷原中学校

第1号
校長 前田 光 男

「第36回 入学式 式辞」

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。ただ今、元気よく返事をした117名の皆さんは、本日より練馬区立谷原中学校の生徒です。在校生ならびに教職員一同、皆様のご入学を心から歓迎いたします。

本校は都内にあって緑に囲まれたすばらしい環境で、落ち着いた学校です。昭和52年に開校され「地域に根ざした学校」として歴史と伝統をもち、多くの卒業生や地域の方々に愛されてきた学校です。今、さらに信頼される学校づくりを目指して、次の三つのスローガンを掲げています。

- ①生徒にとって「誇れる谷原中、学べて良かった学校」
- ②保護者・地域の方々に「入学させてよかった学校」
- ③教職員にとって「充実し、いい仕事のできた学校」

本校のモットーとするところは、「人を思いやる心を育て、正義感や公正さを重んじ、行動力のある若者」を育てることにあります。どうか皆さんも谷原中学校の生徒になったことに誇りをもち、のびのびと明るい学校生活を送ってください。

さて、皆さんにフランスの作家ジャン・ジオノの絵本「木を植えた男」を紹介したいと思います。この絵本は世界の多くの人々に深い感銘を与えた名作です。

お話は原作者であるジャン・ジオノが実際に体験したことを綴る形で展開します。1913年のこと、フランスのプロヴァンス地方の山深い地域を訪れたジャン・ジオノは、その荒れはてた地で、一人の男に出会います。それは羊飼いの男でした。

羊飼いの男は、とても無口でしたが、温厚な態度で、住む家も整然としており、突然の来訪者であるジャン・ジオノを快くもてなしてくれました。

その周囲の村はとても荒れはてており、村人の神経は皆いらだっており、争いも耐えないような有り様でした。そんな状況の中で、一人悠然と気高い精神を持って生きる羊飼いの男…彼の名前はエルゼアール・ブフィエです。

ブフィエは無計画な放牧のために、不毛の地となった荒野に、一粒ずつこころを込め、一日に百個のドングリの実を、30余年間にわたり植え続けた老農夫の物語です。10年後にはドングリの森は幅10Kmにもなり、ブナやカバの森も谷間全体に広がりました。その後、森林ができたことで、連鎖反応が生じ、谷間には小川が流れ、風が種子を運び、柳が育ち、草原が生まれました。30年後、荒野は一万人が住む村にやみがえりました。この男は不毛の地に生命の種を植えつけることに自分の役割を見出したのです。

このなかでジャン・ジオノは「大地を変えるには『持続する意志に支えられた、力まず、目立たず、速効を求めない粘り強い、無欲な行為である。』」と訴えています。

ここにいる117名の皆さんは、一人のこらず、「夢を持ち続け、粘り強く行動できる、心の強い人」に育ってほしいと願っています。本校の校章は「どんぐりの木と実」をイメージしております。

保護者の皆様に申し上げます。お子様のご入学まことにありがとうございます。

本校の教育目標は、

- よく考え、正しく行動できる人、
- 心身ともに健康な人、
- 思いやりと協調性のある人、
- 勤労と責任を重んじる人

の四つを掲げ、私ども教職員一同生徒の健やかな成長のために全力を尽くして頑張っております。どうか今後とも温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、本日、ご多忙の中、ご臨席賜りました、多くの、ご来賓の皆様には厚くお礼を申し上げ、学校長式辞と致します。

平成24年4月9日

練馬区立谷原中学校長 前田光男

ご入学おめでとうございます。

4月9日（月）に平成24年度入学式をおこないました。新一年生は男子61名女子56名計117名を迎えてのスタートです。これから始まる中学校生活は二・三年生の先輩に出逢う大切な時期です。この先輩や教職員との出逢いはこれからの人生を大きく変えるかもしれません。詩人で書道家の相田みつをさんの言葉に「その時の出逢いが、人生を根底から、変えるときがある。よき出逢いを」があります。この谷原中学校での出逢いを大切にしてください。

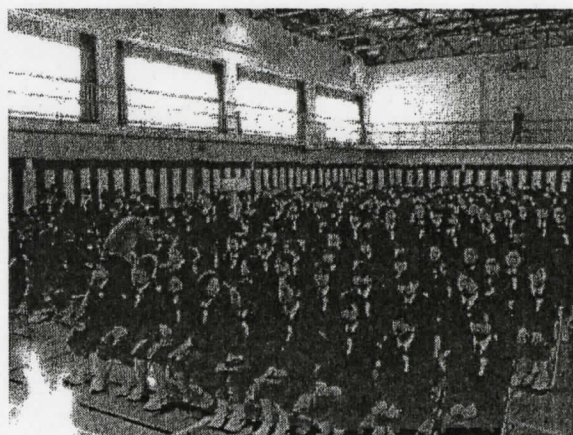
	男 子	女 子	合 計
1年A組	19	17	36
1年B組	19	17	36
1年C組	19	18	37
1年F組	4	4	8
合 計	61	56	117



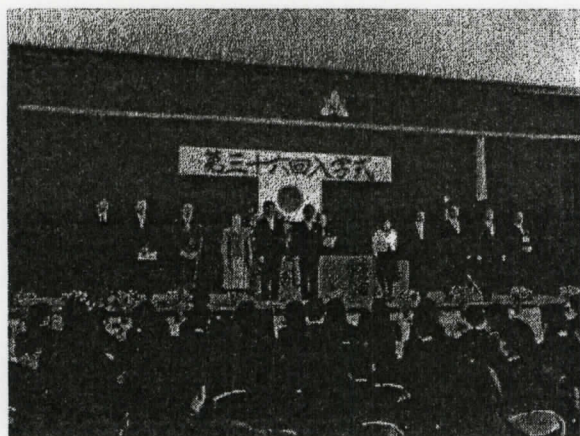
（受付のようす）



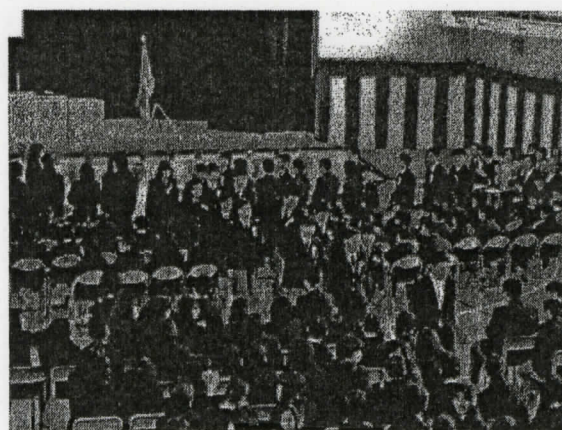
（生徒用玄関でのようす）



（式場へ入場のようす）



（1学年の担任紹介のようす）



（会場から退場するようす）